

# 主日礼拝

2024 年 10 月 13 日  
午前 10 時 30 分

前奏 「深い淵の底から、主よ あなたを呼びます」(160 番)  
(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

## 招詞

「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。  
 主よ、この声を聞き取ってください。  
 嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。  
 主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら  
 主よ、誰が耐ええましょう。  
 しかし、赦しはあなたのもとにあり  
 人はあなたを畏れ敬うのです。  
 わたしは主に望みをおき  
 わたしの魂は望みをおき  
 御言葉を待ち望みます。  
 わたしの魂は主を待ち望みます  
 見張りが朝を待つにもまして  
 見張りが朝を待つにもまして。」 (詩編 130:1~6)

## 頌栄 26 「グロリア」



グロリア グロリア グロリア ちちとみ子に  
 グロリア グロリア グロリア せいなる霊に

## リタニー 「あなたの十字架は」

司式者：まぶねに生まれ、貧しさを知り、悲しむ人をたすね、

十字架の道を歩かれたイエスさま、

会衆：あなたの十字架はあなたの愛。

司式者：苦しむ人を助け、友なき人の友となって、  
十字架の道を進まれたイエスさま。

会衆：あなたの十字架はあなたの愛。

司式者：主よ、わたしたちもあなたに愛されて、  
あなたのように生きていきたいのです。

会衆：あなたの十字架の道を学び、従います。

司式者：十字架の上で死んでくださったイエスさま、  
わたしたちが死ぬとき、あなたの十字架を仰ぎます。

会衆：あなたの十字架に頼り、感謝をささげます。

司式者：苦しみと死のしるしの十字架は、  
救いといのちのしるしとなりました。

会衆：十字架の主は復活されます。アーメン。

## 賛美 19-1,4 「み栄え告げる歌は」

When in our music God is glorified  
詞：Fred Pratt Green, 1903-2000

曲：Charles V. Stanford, 1852-1924



1 み栄え告げる歌は  
心こころにひびきわたり、  
わがわがおおごりごり打ちうち砕くだく、ハレルヤ。

4 息いきあるものはすべて  
調しらべにあわあせあううたえ。歌え。  
み栄えはただ神かみに、ハレルヤ。  
アーメン。


## 祈禱

## 献金

## 主の祈り

天にまします我らの父よ、  
 ねがわくは み名をあげさせたまえ。  
 み国を来らせたまえ。  
 みこころの天になるごとく  
 地にもなさせたまえ。  
 我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。  
 我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、  
 我らの罪をもゆるしたまえ。  
 我らをこころみにあわせず、  
 悪より救い出したまえ。  
 国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの  
 なればなり。  
 アーメン。

## 賛美 32 「キリエ・エレイソン」



# 聖書 ヨハネによる福音書 11:45~54

新約(新共同訳)P190~P191

45 マリアのところに来て、イエスのなさったことを目撃したユダヤ人の多くは、イエスを信じた。46 しかし、中には、ファリサイ派の人々のもとへ行き、イエスのなさったことを告げる者もいた。47 そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。「この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。48 このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も滅ぼしてしまうだろう。」49 彼らの中の一人で、その年の大祭司であったカイアファが言った。「あなたがたは何も分かっていない。50 一人の人間が民の代わりに死に、国民全体が滅びないで済む方が、あなたがたに好都合だとは考えないのか。」51 これは、カイアファが自分の考えから話したのではない。その年の大祭司であったので預言して、イエスが国民のために死ぬ、と言ったのである。52 国民のためばかりでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死ぬ、と言ったのである。53 この日から、彼らはイエスを殺そうとたくらんだ。54 それで、イエスはもはや公然とユダヤ人たちの間を歩くことはなく、そこを去り、荒れ野に近い地方のエフライムという町に行き、弟子たちとそこに滞在された。

## 賛美 291 「み神の座を捨て」

(From God Christ's deity came forth)  
詞: Ephraem Syrus, 306?—373

SALEM HARBOR  
曲: Ronald Arnatt, 1930—

1 み かん み の ざ を す て ひ と と き な ら  
2 さ かん れ の いた も の を せ の も の を せ の も の を  
3 そ む る いた も の の た く ち だ せ び と ても を ち だ  
4 や め る く へ り たく ち だ せ び と ても を ち だ  
5 ひ く へ り たく ち だ せ び と ても を ち だ

れ た 主 まし こん と の お う な る ま  
こ さ た され れて、 し つ ん み の と た な か で お  
と す なく、 く、 み た こ か と び の を ほ あ ら せ  
こ と の さ い し の 主 た た え よう  
し え を と か し れ た を た た え よう  
か く を あ い か せ れ る 主 を た た え よう  
か い を お さ さ れ る 主 を た た え よう

- 1 み神の座を捨て 人となられた主、 3 背いたものをも 大切にされて、  
まことの王なる まことの祭司の 罪人たちさえ 深く愛される  
主を賛えよう。 主を賛えよう。
- 2 婚礼の席で 奇跡を起こされ、 4 病めるものたちを 見捨てることなく、  
神殿の中で 教えを説かれた 御言葉を与え、 深くなぐさめる  
主を賛えよう。 主を賛えよう。
- 5 低くへりくだり ひと々を救い、  
高く昇られて 世界を治める  
主を賛えよう。

## 説教 「犠牲を生み出さないために」

### 聖餐式 81 「主の食卓を囲み」 (前: 81-1, 2・後: 81-3)

1 主のしよくたくをかこみ、 いのちのパンをいただき、  
2 主のじゅうじかをおもい、 主のふっかつをたええ、  
3 主のよびかけにこたえ、 主のみことばにしたがい、

すくいさかずきをのみ、主にあつてわれらはひとつ。  
主のみくにをまことのぞみ、主にあつてわれらはいき。  
あいのいぶきにみたされ、主にあつてわれらはあゆむ。

マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。  
マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。

- 1 主の食卓を囲み、 いのちのパンをいただき、 2 主の十字架をおもい、 主の復活をたええ、  
救いのさかずきを飲み、主にあつてわれらはひとつ。 主のみ国を待ち望み、主にあつてわれらは生きる。  
マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。 マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。  
マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。 マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。
- 3 主の呼びかけにこたえ、 主のみことばに従い、  
愛のいぶきに満たされ、主にあつてわれらは歩む。  
マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。  
マラナ・タ、 マラナ・タ、主のみくにがきますように。

## 賛美 419 「さあ、共に生きよう」

Damit aus Fremden Freunde werden  
詞: Paul Schweizer, 1936—

DAMIT AUS FREMDEN FREUNDE WERDEN  
曲: Paul Schweizer, 1936—

1 さあとも にいきよ うしゅはこ のじだいの  
2 さあとも にいきよ うしゅはち をおとずれ  
3 さあとも にいきよ うしゅはい のちか  
4 さあとも にいきよ うしゅはう えたもの  
5 さあとも にいきよ うしゅはせい れいに  
くる し み と な や み を に な っ て く だ さ る  
ひ と び と と で あ わ れ き よ う だ い と な っ た  
あ た ら し い じ ゅ う の み ち を し め さ れ た  
そ の み を パ ン と し て あ た え て く だ さ る  
わ か た れ た た み を も ち と っ て な ぐ さ れ る

- 1 さあ、ともに生きよう。 3 さあ、ともに生きよう。  
主はこの時代の 主は命かけて、  
苦しみとなやみを 新しい自由の  
になつてくださる。 道をしめされた。
- 2 さあ、ともに生きよう。 4 さあ、ともに生きよう。  
主は地をおとずれ、 主はうえた者に  
ひとびとと出なれ、 その身をパンとして  
きょうだいとなった。 あたえてくださる。
- 5 さあ、ともに生きよう。  
主は聖霊により、  
分かれた民をも  
ひとつとなされる。

## 派遣

司式者 主は言われます。  
「わたしは誰を遣わすべきか。」  
会衆 わたしがここにおります。  
わたしを遣わして下さい。

## 祝祷

### アーメン



後奏 「われらの救い主イエス・キリスト、  
われらより神のみ怒りを除きたまいて」  
(J.S.バッハ)

司式 泉 克行  
説教 向井 希夫牧師  
奏楽 玉理 照子  
助餐 塩冶 みはる  
準備 袁 紅

※お立ちになるのが困難な方は、座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。